

## 自主調査研究報告 [継続報告]

<b>離島観光客の入り込み構造の分析と制約要因への対応に関する調査研究(継1B-1-②)</b>	大分類	継1B
	中分類	継1B-1

### 1. 目的

本研究は、平成20～24年度に実施した自主研究「北海道の離島観光における港湾利活用に関する調査研究」の結果を踏まえ、観光客流動の実態と交通に関する制約要因とその影響を把握し、観光振興に向けた検討材料として資することを目的とする。

### 2. 実施内容

①全国離島の観光入込動向や交通利便性に関する取組事例等に関する調査、②天売島・焼尻島における入り込み状況や交通制約、地域資源等を含めた観光構造の把握。

### 3. 主要な結論

#### 3.1 全国離島への観光入込に関する調査

有人離島への観光入込客数について、離島を構成する316市町村※で見ると、1万人未満は約4割を占める。一方、10万人以上は1割弱であり、ここに含まれる利尻島と礼文島は入込が比較的多い離島と言える。

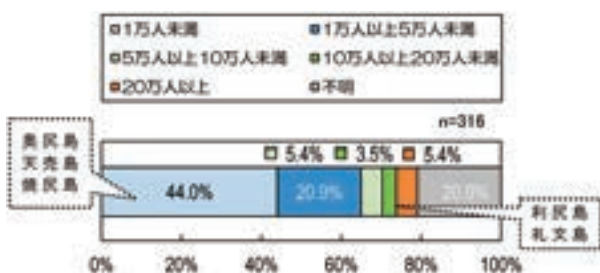


図 離島への観光入込客数(市町村単位、平成22年度)  
資料：「2012 離島統計年報」(財)日本離島センター  
(利尻島の入込数は利尻富士町と利尻町で同値)

離島は交通面での制約が共通して大きい。利便性向上に向けた改善事例を全国的にみると、「多様な交通手段の活用・連携」「ダイヤの改善」

「交通運賃に関する利便性の向上」「情報提供の工夫」が主にみられる。

#### 3.2 天売島・焼尻島に関する調査研究

天売島・焼尻島の現状と、観光振興に向け考えられる主な課題を以下に整理する。

##### 現 状

- ・天売島は海鳥やウニ、焼尻島はめん羊牧場やオノコの原生林が知られており、観光入込客数は昭和49年をピークに減少傾向である。平成21年度以降は18,000人前後(2島合算)で推移し、入込の大半は夏期に集中している。
- ・人口減少や高齢化は道内離島の中でも著しい。地域の現状を踏まえ、基幹産業である水産業と、その他地域資源を活かし、観光入込の維持増加・観光振興を目指した取組(フェリー・高速船運賃の割引サービス、イベントの実施等)を進めている。

##### 課 題

- ・観光振興上、個人型観光客の量的維持・拡大は重要な課題である。しかし、天売島・焼尻島の観光資源は量的に限られており、視点を変えてみることも必要。
- ・ウニやサフォークラム肉などを生かした食シーンの構築。
- ・国内に留まらず、外国人観光客を対象とした誘客プランと情報発信方法の検討。
- ・観光振興を担う人的資源の確保。

### 4. 今後の対応

利尻島・礼文島を主な対象とした調査研究をするほか、3カ年にわたる研究の総括として、北海道の離島全般についてとりまとめを行う。

※有人離島は全国に305島。そのうち複数市町村で構成されている離島が6島あり、有人離島を有する市町村は316となっている。上記6島は、各市町村の合計と離島全体の値が一致しない場合があるため、市町村単位で集計している。